

A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

項目	評価内容	重視したい評価内容	園の取り組み	評価				改善策・来年度に向けて
				A	B	C	D	
向かうべき保育の方向	法人理念『子ども一人ひとりに寄り添い大切に育てる』	子どものバックグラウンドや発達を知り、想いを受け止めながら一歩先の手立てを考える寄り添い方ができている	法人理念を土台に、園の目標を立てねらいや思いを持ち、保育に取り組む姿勢作りをしている。 子どもを見る視点を養うためにドキュメンテーションや、クラスだよりなどを作成している。 保護者へ専門的知識を持ち保育者としてのアドバイスが出来よう日々学び、自身の振り返りを大切にしている。		○			どの保育者も前向きな考え方をもち、楽しい保育に取り組めるような意見の発言、語り合いを意識していくことが必要。子どもを見る視点や考察など本を読んだりと自分の考えだけでなく、学びが重要となる。それぞれの保育者の経験を生かし、保育の引き出しを増やすための対話をしていく。
	園の基本方針 『子ども一人一人の発達や成長、その子を取り巻く環境をよく理解し、その子の少し先を見据えた「今」を温かく丁寧な保育をする』『未来を生き抜くために、たくましい心と体を作り、創造性豊かに考えることができるよう保育する』『安心して子どもを預ける環境を作り、親が自らの子育てを相談し、安心なようなサポートを受ける』				○			
	園の目指す子ども像 『よく遊び、よく食べよく眠り、健康でたくましい体と心を持つ子ども』『いろいろな人と関わりを持つ子ども』『身近な環境に興味関心を持つ子ども』『自分の力で行動できる子ども』				○			
	園の求める保育の視点 『子ども一人一人の発達を理解し、ていねいな関わりをする』『日々の保育の振り返りを主体的な関わりが出来るように工夫する』『全子どもが何に興味を持ち、満ち足りた表情をみせるように工夫する』				○			
保育について	子どもの人権	子どもの人権を意識した保育がされている	自分らしく過ごせるよう個を大切にしたい関わりをしている。		○			子どもの意欲を見逃さず、成長につなげられるよう保育者一人一人が意識をする。子どもの少し先を考えた遊びの提供と、環境作りに取り組む。正しい発達理解と個々に合った関わりが出来るよう、声かけのタイミングや見守り方の重要性を理解していく。
	0歳から積み重なっていく発達を学年をまたいで考えられる	0歳から就学前までの発達が理解できおり、個や異年齢の関わりを大切にしたい保育や保育の連続性を考慮した保育が行われている	異年齢活動に大切さを話し合いどんな関わりが良いのか考え活動に取り入れている。		○			
	つながる保育	日々保育の振り返りが行われ、今後の保育へつなげるよう計画されている	日誌を活用し、月日のねらいと振り返り、次の日の活動を記入しつながりのある保育が出来るようにしている。保育者の関わりを記録していく。		○			
	生活リズムの確立およびリズムの多様性への配慮	安定した穏やかな気持ちで園生活が送れるように子どもの目線になり落ち着ける時間や空間(環境)が保障されている 春や発達に考慮した関わりを行っている	経過記録を記入し個の育ちを理解しどのような関わりが必要か保育者での語り合いを実施。			○		
	環境を大切に考える保育	自らあそび、チャレンジし、発想を広げられるような環境が整えられている	環境リーダー中心に環境設定の見直しを定期的に行い、保護者にも発信している。		○			
安全管理	マニュアル理解	安全計画や災害・事故防止マニュアルは実効性があるものが策定されており、職員が内容を理解し定着対応できるような取り組みができている	毎月マニュアル研修を行い意識が薄れないようにする。実践研修を取り入れるなど危機管理意識を持つ。		○			日々の保育の中にヒヤリハットがあることを意識し、改善点を考え安全に保育をしていく。毎月の災害訓練に加え、予告無しの訓練も取り入れていき、柔軟に対応する力を身に付けていくことが必要。保護者への防災意識を持ってもらうための工夫は、毎年行う。
	事故防止	日々のヒヤリハットを集め共有し、園の子どもの特性を知っている 気を付けることや改善することを共有実践し大きな事故は減らしている	ヒヤリハットを記入するだけでなく、改善策の話し合いと実践を大切にし、会議での発信を実施。		○			
	防災	様々な災害を想定した訓練を行い、全職員が状況に応じた的確な行動がとれる 保護者にも災害に対しての知識を伝えている	実際の災害の事例をもとに自園の環境に合った判断や取り組みを職員で話し合いながら訓練に取り組んでいく		○			
	環境	クラス・廊下・共有場所・避難経路の整理整頓ができており安全が確保できている 遊具・玩具等点検を行い修繕されている	備蓄の保管場所の工夫、園内の清掃など日常的に意識している。破損玩具の管理意識をもてるよう職員に呼びかけられている		○			
保健・食育	マニュアル理解	感染症マニュアルは実効性のあるものが策定されており、職員が内容を理解し、感染症や疾病についての知識を持ち対応できている	感染症についての読み合わせをMT等で行う。保護者への正しい知識の提供や、集団生活での意識の大切さを試行錯誤しながら発信している。			○		感染症時の対応や内容など曖昧にならないようする。職員同士の対応など違ったものにならないよう話し合いと、事例検討を繰り返す。運動機能の発達を促す為に、必要なことを保育者が理解し、保育活動に取り入れる。離乳食対応など給食職員、保護者共に正しい知識を伝えられるスキルが必要。
	健康	健康に過ごすために年齢にあった習慣が身についている	保護者支援リーダー中心に家庭での食事への取り組みの発信を保護者にしてもらうなど、園と保護者と連携が出来よう工夫している。食育活動など、給食職員との共有をMT内で行い、離乳食対応についても安心安全に提供出来るように、保育者・給食・保護者とのつながりを大切にする。		○			
		自ら体を動かすことで心と体の健康を保つ取り組みを行っている			○			
	食育	食に興味を持てるよう給食職員と連携しながら取り組みをしている			○			
		発達に応じた食事のマナーを伝えている				○		

項目	評価内容	重視したい評価内容	園の取り組み	評価				改善策・来年度に向けて
				A	B	C	D	
組織運営	組織体制	コミュニケーションやチームワークを大切にした組織運営ができています	園としての思いや、考えを具体的に職員全体へ伝えるようにしている。職員一人一人のリーダーや係をあたえ、ねらいと目的や意図を明確にして実践してもらっている。言葉で伝えることを大切に、職員の話し合いの場を多くもつ。MTでも職員中心での意見交換を実施。		○			自分が出来ることは何だろう？とどの職員も考え、与えられた役割以外も自発的にやろうとする意識が大切。自身のあたりまえを見直し、職員同士で疑問を持ち意見を伝え合う。
		園長を中心に役割分担と責任が明確にされ迅速な対応ができる体制があり、担当の役割を全うできている			○			
		打ち合わせや会議・MT等が適時行われ、情報共有がしっかりできている			○			
研修	研修の充実と質の向上	園内研修担当者が中心となり園の課題や園が目指す保育の充実について学びの場や語り合いの場が活発に作られている	どの職員もリーダーや係を持ち、園内での研修を行い1年つながりのある継続的な研修を実施。他園との研修を通し日々の保育の見直しや保育内容の改善につなげている。		○			日常的な語り合いの中で、考え方や、保育の知識などの引き出しを増やすことが大切。今何が必要なのか考え、迅速に実践する力が必要。
		園外研修へ参加し自身の保育の質の向上に努め園内の保育に活かされている			○			
家庭護と者の支援	保護者支援	保護者が子どもの想い・成長・発達を受け入れ子育てできるよう配慮している また保護者が子どもの最善を考え行動できるよう支援している	家庭児童相談所や、保健センターとの関りを密にし各機関での役割を明確にし協力しあい保護者支援、子ども支援に取り組んでいる。保護者との対話を日頃大切に、子どもの育ちだけではなく保護者の悩みを聞いたり子育てを一人で抱えないよう声掛けを大切にしている。	○				例年同様各機関とのつながりを大切にしている。さまざまな保護者に合わせ、柔軟な対応をし、信頼関係を築いていく。子どもの成長過程での悩みも共有し合い、育つ姿を喜び合っている。
	家庭との連携	保護者との信頼関係が築けており、保育園での子どもの様子を伝え喜びやつまずきを共有し共に育てている 園と保護者で子どもの様子や成長を共に楽しみ喜び合っているような取り組みをしている			○			
と校近 の（隣 連園の 携）学	（保育園）就学に向けた学校とのつながり （小規模）年少進級に向けた連携園とのつながり	（保育園）公開保育開催や公開授業へ参加、地域の情報交換の場へ参加し小学校との連携を図り就学がスムーズに行われるよう努めている （小規模）連携園との交流を行いスムーズに進級できるよう努めている	連携園に定期的に遊びに行くことや、連携園との情報共有をし進級がスムーズになるようにしている。支援が必要な子の成長、発達などの伝達もしつながりを持った保育をしていけるようにしている。		○			連携園以外に進級していく子に対しても、子どもの成長の様子なども伝えて行き、つながりを持った保育ができるようにしていきたい。
域近 連と隣 携の地	地域に親しまれる園作り	豊かな経験がはぐくまれるように、地域の方々人と場に関わる機会を大切にしている	自治会への園だよりを配布したり、高部交流館の作品展に参加をし、地域の方との関りを持つ取り組みをしている。		○			次年度も園だよりの配布をし、地域とのつながりを大切にする。地域行事への関りも持っていきたい。